

地域と大学を結ぶ広報誌

城西

Vol. 4
2013.2

ニュース

第45回高麗祭

かけがえのない 1 KOMAをあなたに

特集1 グローバル力を育成 「マレーシア短期集中英語研修」

特集2 学外活動の現場から 学びに生きる、熱き挑戦

城西の行事

目次

- 02 [ニュース] 城西の行事
第45回高麗祭
かけがえのない
1KOMA をあなたに 他
- 04 特集1
グローバル力を育成
「マレーシア短期集中英語研修」
- 06 特集2
学外活動の現場から
学びに生きる、熱き挑戦
- 08 [連載]
「高麗川プロジェクト」展開
- 10 [シリーズ]
JOSAI・JINZAI / 浮世絵
- 12 [ニュース]
- 17 [シリーズ]
学生瓦版 / 大学図書館
- 18 [お知らせ]
名誉理事長 大学葬
- 19 [エリア紹介]
越生町 春のおごせ散策「梅林」
坂戸市 春を彩る坂戸の桜
東武線沿線情報 東上線さらに便利に
- [城西歳時記]

題字：創立者 水田三喜男 先生

今号の表紙

本学の学生たちにとって最大の祝祭である「高麗祭」。坂戸キャンパスが紅葉で彩られ始めた2012年11月、第45回が開催されました。多彩なイベントや展示で、来学された地域の方々とかけがえのない時間を共有しました。



城西大学で2012年11～12月に行われた、多彩な祝祭や記念行事などについてご紹介します。

地域連携協定調印記念植樹式

2012.11.2

八重桜に思い込め

城西大学は、本学が立地する坂戸市、近隣の毛呂山町、越生町の計3市町との地域連携協定を記念して、2012年11月2日(金)に植樹式を開催しました。式典には本学からは水田宗子理事長をはじめ学生たちや多くの学内関係者、埼玉県議会の木下高志議員、坂戸市の石川清市長、毛呂山町の井上健次町長、越生町の小笠原誠副町長など地域の関係者の方々に出席いただき、晴れ渡る空のもとで本学・坂戸キャンパス内に八重桜の木を3本、植樹しました。城西大学は今後も、地元や近隣の自治体の方々との連携を積極的に展開し、地域相互連携による様々な活動を通して、地域の活性化や発展に寄与していきます。



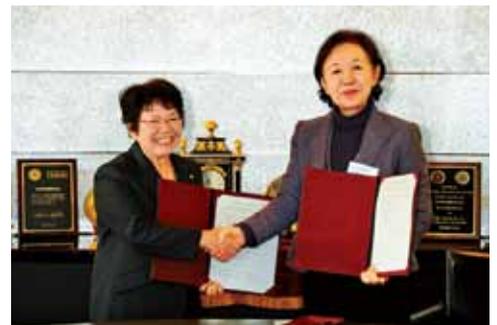
植樹式

越生町との相互連携に関する基本協定書調印式

2012.11.2

より一層深い親交を

城西大学は埼玉県越生町と、相互連携に関する基本協定書を結び調印式を執り行いました。越生町と本学とは、経営学部の学生が越生まつりに参加したり、薬学部が越生町特産の柚子の入浴剤について研究するなど、以前より深い親交があります。今回の協定では、地域発展と人材育成に寄与するため、産業・文化・学術等の分野で相互に協力していくことを目的として掲げています。今後、両者の交流や連携活動がますます深まり、より一層の地域活性化などに繋がっていくことが期待されています。



2012年11月2日に行われた調印式の様子

第45回高麗祭

2012.11.2~4

かけがえのない「^{ひと}1 KOMA」

城西大学坂戸キャンパスが紅葉で彩られ始めた2012年11月2日(金)~4日(日)、『第45回高麗祭』が開催されました。高麗川は、その流れが学歌にも謳われるように、創立当初より本学の心の拠り所となっているため、学園祭も「高麗祭」の名称で親しまれています。2012年は「45th~かけがえのない思い出の1KOMAをあなたに」をテーマに、日ごろの学び成果を活かした多彩な展示やイベントが繰り広げられ、学生たちや大学関係者そして来学された方々とで充実した時間を共有しました。

また、父母後援会や同窓会そして地域の皆様から支援を頂き開催する恒例の物産展は、高麗祭名物として今回も賑わいました。さらに、水田美術館で特別公開「水田コレクション浮世絵名品展」、水田記念図書館で企画展示「日本の伝統医学」も開催され、芸術や学術文化にも日ごろ以上に親し



める機会となりました。

年に1度開催される祝祭「高麗祭」の準備は、学生たちが中心となり進めました。実行委員会のメンバーや中央委員会と各学部学生会のメンバーに、大学関係者一同は心から感謝するとともに、この素晴らしい祭が城西の伝統・歴史となり、その力強い実行力と豊かな創造力が次代の学生たちに引き継がれていくことを願います。

2012.12.14

2012年度 奨学生表彰式

城西大学では学生たちをサポートするために、様々な奨学金制度を用意しています。2012年12月14日(金)、総勢56名+3チームの学生への奨学生表彰式が行われました。水田宗子理事長と森本雍憲学長より、以下の各奨学金が奨学生に授与されました。

<水田奨学生 第一種・第二種特待生>

創立者 水田三喜男先生の建学理念「学問による人間形成」を具現しつつある本学学生の中より、努力と成果の顕著な者に奨学生としての特典を与え、更なる研鑽を期待する制度。

*2012年度奨学生 37名

<女性リーダー育成奨励生(水田宗子奨学金)>

学校法人城西大学 水田宗子理事長の寄付にて、建学理念を体し、現代社会の諸課題に取り組み国際社会でリーダーシップを発揮できる女性人材の育成を目的に、設立させた制度。

*2012年度奨学生 4名

奨学生表彰式
出席者

<水田三喜男記念奨学生>

創立者 水田三喜男先生の建学理念に基づき、日本及び国際社会の各分野で指導者となれる人材の育成を目的に、設立させた制度。

*2012年度奨学生 10名

<キャリア形成奨学・奨励生(渡辺好章奨学金)>

元副学長 故渡辺好章教授の寄付にて、資格試験に挑戦する学生、まちづくりを支援する学生、海外でのグローバルな活躍を目指す学生に対し、人材育成と更なる研鑽を期待する制度。

*2012年度奨学生 5名+3チーム



特集1 グローバル力を育成「マレーシア短期集中英語研修」

多文化社会を体感し活きた英語を学ぶ

2012年9月、城西の学生たちが参加して、マレーシアで短期集中英語研修が初めて実施されました。研修概要や意義、そして参加学生たちの感想や研修で得た成果などを紹介します。

夏休みにマレーシアで英語漬け

夏休みにマレーシアで英語漬けになる——そんなユニークな研修が、2012年9月1日(土)～16日(日)の約2週間の日程で実施されました。この研修は、城西大学・城西短期大学・城西国際大学の学生が、学部・学年・英語レベルを問わず誰でも参加できるプログラムで、学生たちの英語力と異文化理解の向上に寄与し、城西のグローバル人材育成と国際交流活動に繋げていくことを目指しています。マレーシアは東南アジアにおける経済発展国で、多文化・多民族が共生するため英語が共通語として使われており、グローバル人材の育成には最適な国なのです。

90名が参加 UTARで集中講義

今回は、総勢90名が研修に参加しました。内訳は、城西大学の経済・現代政策・経営・薬学の各学部と短期大学さらに大学院の学生が75名、そして姉妹校の城西国際大学から15名です。受け入れ先は、本学が学術交流協定を結んでいるUTAR (Universiti Tunku Abdul Rahman: トUNK・アブドゥル・ラーマン大学) で、UTARの英語教員が主体となり研修が行われました。授業は英語レベル別に5つのクラスに分かれ、1日6時間×10日間というハードな集中講義でしたが、ゲームやディスカッション形式など様々な工夫が導入されており、学生たちは楽しみながら学び英語力を大いに高めました。その他、観光局ペラ州局長の招待による晩餐会でペラ州の地域振興について学んだり、UTARの学生たちと様々な交流イベントを行ったりと、多彩な国際交流活動も体験してきました。

国際交流にも大きな手応え

今回の研修は、初回ながらも大きな成果をおさめました。参加した学生たちは、英語力アップと多文化社会への理解という、グローバルな視野の涵養に向けた確かな手応えを各自が得てきました。本学は、マレーシアの大学とは今回の研修先のUTARの他に、マネジメント&サイエンス大学やマラ工科大学とも様々な学術交流を行っています。これらの実績も加味しつつ今回の成果や課題などを踏まえ、マレーシアで展開するこのプログラムが城西のグローバルプログラムのひとつとして、さらに発展・継続していくことが期待されています。



授業の様子



キャメロンハイランド見学

●研修日程 2012年9月1日(土)～16日(日) / 約2週間

日程	内容
9月1日(土)	東京 発 ⇒ クアラルンプール 着
2日(日)	ペナン見学
3日(月)～7日(金)	英語授業
7日(金) 晩	観光局ペラ州局長招待による晩餐会
8日(土)～9日(日)	キャメロンハイランド見学・学生交流
10日(月)～14日(金)	英語授業
15日(土)～16日(日)	クアラルンプール見学・発 ⇒ 東京 着



UTARペラキャンパス

学生座談会

2012年12月26日

マレーシア短期集中英語研修を振り返って

研修から約3カ月後の12月26日(水)、城西大学から研修に参加した4人の学生たちが集まって座談会が開かれ、研修で得られた成果や意義などについて話し合いました。オブザーバーとして、今回の研修実現に尽力いただいたマレーシア政府観光局の徳永氏と、研修の引率を担当した城西大学語学教育センターの中山准教授も参加し、研修の統括責任者となる経営学部の福島教授が司会を務めました。各人からのコメントなどを紹介します。

工藤敦路さん／現代政策学部 社会経済システム学科2年

1日に6時間ずっと英語漬けになるのですが、色々と工夫が凝らされた少人数での授業は全く苦になりませんでした。UTARの先生は、教えるというより丁寧に一緒に会話をしてくれるような感じなので、リラックスした雰囲気の中で学べました。クアラルンプールでは、かねてから興味があったペトロナスツインタワーや賑わう市街地などを見学し、マレーシアが東南アジアにおいて経済発展国であることを実感できました。

光山愛美さん／大学院 薬学研究科 薬科学専攻1年

英語と身振りだけで説明し、相手の話も聞きとらなくてはならないので最初は苦労しましたが、UTARの先生が丁寧にサポートしてくれたので、かなり理解できるようになりコミュニケーション・スキルも向上しました。食事は、積極的に美味しいマレー料理など現地の食べ物に挑戦。イスラムの戒律に沿ってつくられたハンバーガーやメニューなどもあり、食文化を通して日常生活に宗教が生きている社会を体感できました。

吉岡未来さん／大学院 薬学研究科 薬科学専攻1年

日常に密着した内容の会話を主体とした学習内容で、学外で実際に英語を使い現地の人々とやりとりしてみるなどの研修は、英語の苦手な私でも抵抗感がなくなり、積極的に話すことが楽しくなりました。UTARでは、英語学習の合間に化学の研究室を見学させてもらいました。学生さんたちが自分の研究について熱心に説明してくれ、また日本に関して強い興味を持っていて質問攻めにあい、彼らの高い学び意欲を感じました。

杜程程さん／大学院 経営学研究科 ビジネスイノベーション専攻1年

母国(中国)にいたころより英語学習には力を入れてきていたので、今回の研修では上級クラスに入ることができ、さらに英語力を高めることができました。また、私と同じ中国系やマレー系など、様々な人々がお互いの文化を理解し認め合っている社会がとても興味深く、様々な発見がありました。マレーシアの人々は総じてオープンマインドでフレンドリー。UTARの学生さんたちともすぐに打ち解けることができ、充実した2週間でした。

オブザーバー 徳永誠氏／マレーシア政府観光局 マーケティングマネージャー

マレーシア人の英語能力はアジアで最も高く、またマレーシアは教育水準が高い国です。大学など教育機関の多くが様々なニーズに対応できる充実した英語教育プログラムをもっており、留学生が短期間で実践的な英語力を身につけられる環境が整っています。物価が安く治安も良い国なので、発展するマレーシアそしてアジアのダイナミズムを肌で感じながら、グローバルなコミュニケーション能力を培ってください。

研修引率者 中山誠一先生／語学教育センター 准教授

今回のプログラムは、TBLT(Task-based Language Teaching=課題達成のために英語を用い、その過程を通して英語運用力を育成する学習法)が導入されており、学生たちはコミュニケーションを図ろうと努力しながら自然に英語力を高めていきました。また英語が第二言語であるUTARの教員の方々は、第二言語として英語を学ぶ際の課題を我が事として理解してくれており、丁寧に熱心に指導いただけました。

研修責任者・座談会司会 福島和伸先生／経営学部 教授

多民族国家のマレーシアでは、共通語の英語がコミュニケーション手段として重要な役割を持っているため、非常に実践的で生きた英語研修が実施できて大きな成果があがりました。研修終了後に参加学生たちにアンケートを取りましたが、各自が様々な成果を実感してきており、参加して良かったとの回答がほとんどでした。城西とマレーシアとの交流から生まれたこのグローバルなプログラムを、学生たちのためにさらにより良いものにしていきたいと考えています。



マレーシア座談会／
後列左から中山准教授、工藤さん、杜さん、吉岡さん、光山さん
前列左から福島教授、徳永氏

特集2 学生、動く——学外活動の現場から

学びに活きる、熱き挑戦

城西大学の学生たちは、日ごろの学びや学内活動を通じて培った知恵やコミュニケーション力などを駆使して、学外の様々な活動に参加し活躍しています。一方で、対外活動の過程や

成果が学びの現場に還元され活かされています。今回はそのような活動の中から、二つの熱き挑戦を紹介します。

水田記念図書館+現代政策学部

『ビブリオバトル』(2010~2012年)

『ビブリオバトル』とは、バトラー(発表者)たちが制限時間内に自分のお薦め本を紹介し、会場の参加者たちが一番読みたくなった「チャンプ本」を選出する、新スタイルの「書評合戦」です。城西大学では2010年より毎年、学内予選会を水田記念図書館で開催し、チャンプ獲得者は本学代表として大会に出場しています。そして活動成果は、参加学生や学びの現場において様々な相乗効果を創出しています。

2012年の挑戦

自分の能力を客観的に認識

2012年10月7日(日)開催の『ビブリオバトル地区決戦(関東Cブロック)』に、石井亜希子さん(現代政策学部3年)が出演。「スイートトリライズ(江國香織著)」を手に、各大学から勝ち上がってきた6名のバトラーたちと熱戦を繰り広げました。チャンプ獲得はなりませんでしたでしたが、磨きのかかったプレゼンで参加者たちの共感と呼んでいました。

石井さんは、柳澤智美助教のゼミで、高齢化を迎えた埼玉県における「共助社会」というテーマに取り組んでいます。これは、県の公募事業に基づいて始めたもので、22人のゼミ生全員が一つのチームとなり進めているとのこと。現代政策学部ではこのように、社会の様々な問題に対峙し解決策を見出していく学びの過程を通して、学生たちはコーディネート力やコミュニケーション能力などを身につけていくのだそうです。

ビブリオバトルでは、本を読み解く力に加え内容を興味深く伝えていく能力が求められます。石井さんは大会参加を決意後、柳澤先生の指導のもとプレゼンテーション力を徹底的にブラッシュアップ

プ。その結果、日ごろから読書やゼミなどで鍛えていた自らの能力に向き合い、高めることができました。柳澤先生も、石井さんの長所がさらに表に出てきたと感じているそうです。今回の参加体験は、石井さんの今後の学びや就職活動、そして社会人になってからも活きることでしよう。

2011年の展開

法学的視点から文学をひもとく

2011年6月27日(月)開催の『ビブリオバトルin紀伊國屋 大学生大会』に、宮嶋迅さん(現代政策学部3年/当時)が「海と毒薬(遠藤周作著)」を手に出場。正統派の論調で熱弁をふるい、好評を博しました。その後10月30日(日)開催の『ビブリオバトル首都決戦』では、「銀河鉄道の夜(宮澤賢治著)」を賢治になりきってプレゼンテーションし、参加者たちの心をつかみました。

子供のころから読書好きな宮嶋さんは、所属ゼミの市川直子准教授からビブリオバトルを紹介され、出場を決意。最初の出場では、最も心に残っている「海と毒薬」を推薦本に選びました。宮嶋さんは、遠藤周作展などにも足を運び作家のバックボーンまでも理解することにより、この本が問いかけてくる密度の濃い内容をプレゼンテーションできたと語ってくれました。そして活動は、さらにゼミ全体の学びへと展開していきます。

市川先生のゼミ「政策研究プロジェクト~憲法ゼミ」では、宮嶋さんの大会出場を契機に、今度はゼミ生全員で「海と毒薬」について、法的な解釈を加え意見を述べ合ったところ、法政策論に繋がる考察に発展するという成果を得ました。宮嶋さんも、文学を倫理的な面からのみならず、法学的な視点から捉えることに新たな興味を持ちました。そして市川先生も、このような小説論の導入に憲法ゼミとしての可能性を見出したとのこと。今後はさらに様々な小説を題材に法政策論への展開を試み、学びに活かしていきたいとのこと。



石井さん(左)と柳澤先生



決戦でプレゼンする石井さん



宮嶋さん(左)と市川先生



大会でプレゼンする宮嶋さん

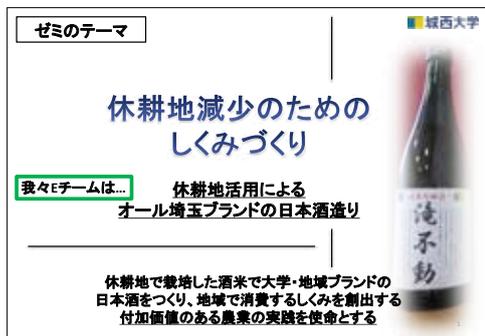
『社会人基礎力育成グランプリ』(2009~2012年)

『社会人基礎力』は、社会で求められる「前に踏み出す力(主体性・実行力など)」「考え抜く力(課題発見力・創造力など)」「チームで働く力(発信力・柔軟性など)」の3要素から構成される能力のことで、経済産業省が2006年より育成と普及に取り組んでいます。2007年より始まった『社会人基礎力育成グランプリ』は、大学のゼミ・研究・授業等を通じて学生たちが身につけた「社会人基礎力」を競う大会で、城西大学では2009年から毎年参加しています。大会での成果発表は、学生たちの能力を高める良い機会であるとともに、参加のための一連の活動自体が、ゼミや授業の流れにうまく還元され活かされています。

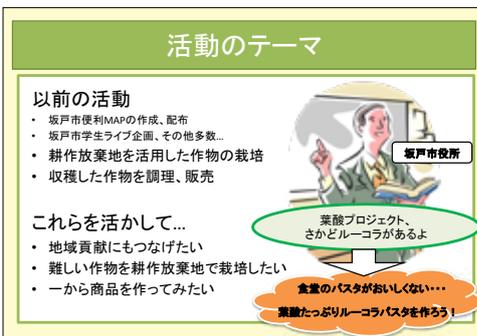
2009年と2012年に準優秀賞 城西大学の底力

2012年11月14日(水)開催の『社会人基礎力育成グランプリ2013関東地区予選大会(日本経済新聞社主催・経済産業省共催)』で、「休耕地活用プロジェクト~オール埼玉ブランドの日本酒『醸彩滝不動』による地域課題の解決」をテーマに発表した現代政策学部・石井雅章准教授のゼミチームが、Bブロック16大学中2校に与えられる「準優秀賞」を獲得しました。

2009年開催のグランプリでは、経営学部(2009年当時)・末永啓一郎准教授のゼミチームが、「ITを活用した地域活性化プロジェクト『さかどのめ』」のテーマにて、並みいる強豪校を破り「準優秀賞」を獲得しました。現代政策学部・石井先生と経済学部(2012年現在)・末永先生のゼミからは、2009年より毎回チームが



2012石井ゼミの発表テーマ



2012末永ゼミの発表テーマ



2012大会で活躍した石井先生(右から2番目)とゼミメンバー



2012準優秀賞を獲得した石井ゼミチームの発表



大会に出場した末永先生(左)とゼミ生の葛城さん(中央)、渡辺さん(右)

参加しており、学生たちは日ごろの学びで鍛え上げた実力を発揮し、素晴らしい成果をあげています。

2012年 白熱する学内予選会から本大会へ 学生の企画・運営で進む一連の活動

大会は、同一大学同一学部からは1チームしか参加できないため、本学では「学内予選会」を実施し「関東地区大会」参加チームを選出しています。2012年は10月13日(土)に学内予選会を実施。企画・運営・広報など全てが学生たちの手により進められ、外部から講師や審査員も招聘された本格的な構成で、経済学部・経営学部と現代政策学部から計7チームが参加しました。

そして予選を勝ち抜いた、石井ゼミ「オール埼玉ブランドの日本酒『醸彩滝不動』による地域課題の解決」チームと、末永ゼミ「耕作放棄地を活用した地域ブランド『さかどルーコラ』の栽培と『ルーコラバスタ』の開発販売プロデュース」チームが、本大会に出場。石井ゼミチームは、現代政策学部3年の藤部さん・胡さん・丁さんの3名が、昨年度から引き継いだ日本酒づくり、製造した日本酒の販路構築、ブランド確立のためのイベント開催・広報活動、今年度の酒米栽培などの活動について発表し、受賞に繋がる高い評価を得ました。末永ゼミチームは、経営学部4年の葛城さんを中心に、坂戸市特産品であるルーコラの栽培からルーコラを使っただの商品化まで、地域活性化の視点をもったマネジメント活動について発表し、好評を博しました。

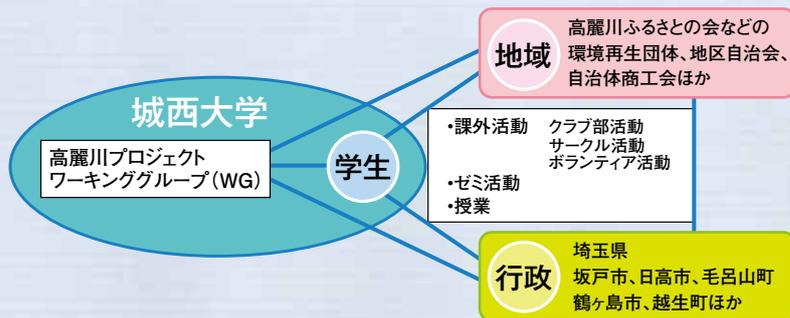
大会参加の意義 ゼミへのフィードバック

本学では、PBL(Project Based Learning:プロジェクト型学習)を積極的に導入しており、石井・末永両先生のゼミでは、行政や企業とも連携して地域活性化の仕組みづくりやマネジメント手法などの課題に取り組んでいます。そうした中、グランプリへの参加は、学生たちがプレゼンテーション力やプロジェクト推進力などを磨くと同時に、自分たちの活動を再確認し今後の課題を見出す機会にもなっていると。また他大学の発表や外部の方々からの批評なども、自分たちを客観的に見つめ直す参考になるそうです。石井・末永両先生のゼミでは今後も継続して参加し、全学的活動に広げたいとも語ってくれました。

連載

「高麗川プロジェクト」展開

高麗川プロジェクトとして展開されている学生たちの自主活動が、さらに広がりを見せています。その中から、高麗川清掃ボランティアと高麗川野鳥の会についてなど、近況を紹介いたします。



学外からも参加 「高麗川清掃ボランティア」活動

(2012年11月14日)

広報誌前号で紹介した高麗川の清掃が、2012年11月14日(水)に実施されました。虫や蛇などの動きが活発化する夏季は現場での活動は休止とし、今後の活動方針・企画づくりや地域の方々への活動紹介・参加呼びかけ、ネットワーク拡大などが行われていましたが、秋も深まってきたところで現場での清掃活動が再開されました。



たくさんのごみが集まる 　 ふるさとの会の方と学生と一緒に活動 　 坂戸西高校の生徒も一緒にごみの仕分け

地域の方や高校生とともに

今回の清掃ボランティア活動は、城西大学の学生たちだけではなく、「高麗川ふるさとの会」から10名、坂戸西高等学校からは教頭先生と生徒たち合わせて6名の有志の方々が、参加してくれました。「高麗川ふるさとの会」は、高麗川の良好な水辺環境の修復・保全を願う市民の有志で作られた会で、城西大学とは2012年の夏ごろから交流が始まりました。ふるさとの会が実施している浅羽ビオトープでの野鳥調査に学生が参加するなど、自然観察や保護活動に関して会の方々からご指導を頂いています。さらに、城西大学薬学部の薬用植物園をふるさとの会の方々に見学して頂いたり、交流活動が広がり始めています。また坂戸西高等学校と城西大学とは、2012年度に連携教育協定を締結しており、坂戸西の陸上部や水泳部の生徒たちが城西大学の施設を活用して練習を実施したりと、交流活動が進んでいます。

清掃活動は午後3時からスタートし、ふるさとの会・坂戸西高等学校・城西大学のメンバーが混成された4班にわかれ、城西大学に隣接する高麗川右岸の河川敷で清掃

を行いました。現場には坂戸市河川公園課の方たちも駆けつけ、作業を応援してくれました。11月の陽は短く、午後4時を過ぎるとあたりは夕焼けに包まれてきましたが、約1時間の作業で軽トラック約1台分のごみが集まりました。集まったごみの仕分け作業が終わるころには、既に陽は落ち寒くなってきましたが、参加者は全員笑顔を浮かべ、活動は大きな成果を得て終了しました。

広げていきたい地域協働の機会

今回の清掃ボランティア活動は、地元の年配の方から高校生まで様々な立場や年代の人たちが一緒になり、自分たちで地域

の自然を守ろうという、共通の目的を持って活動していく第一歩となりました。また、高校生や大学生たちは、ふるさとの会の方々から豊かな経験に基づいたアドバイスを貰ったり、地域の自然や歴史などに関わる様々な話を聞きながら清掃活動を行ったりと、年配の方々や若者たちとの交流の機会ができました。そして高校生と大学生たちの間にも親近感が生まれ、高校生には大学生活の一部を体験してもらう機会にもなりました。

清掃ボランティアは根気のいる地道な活動ですが、年齢や立場を問わず誰もが参加できる活動です。今後も地域の環境を守っていくために、様々なコラボレーションによる活動展開が期待されます。



作業終了後に全員集合



コマ(koma)ちゃん

「高麗川野鳥の会 こまちょう」活動 (2012年8~10月)

発足の経緯と活動実績

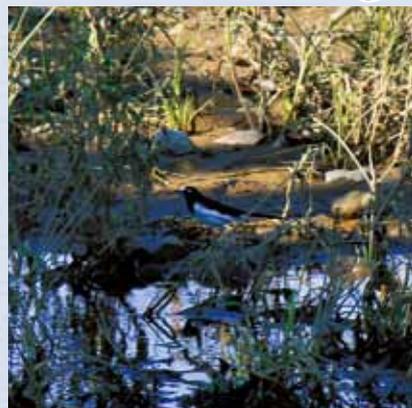
高麗川プロジェクトとして展開している活動の一つに、広報誌前号でも紹介した「高麗川野鳥の会(略称こまちょう)」があります。水田美術館での「高円宮妃久子殿下特別展—空翔ける鳥、旅する根付—」をきっかけに、野鳥好きな学生たちが集まり、2012年の夏ごろからプロジェクトとして活動を始めました。メンバーは現在、経営学部と薬学部の学生を合わせ6名います。リーダーの庭野渉さん(経営学部2年)は、子供のころから野鳥が大好きとの事。クラブ活動は写真部に所属していて、野鳥や自然の撮影にも取り組んでいるそうです。

「こまちょう」メンバーは、野鳥観察をただの「野鳥見学」ではなく、野鳥や自然を保護する活動に繋げていけるように、経験を積み勉強している真っ最中です。まずは

2012年の8月、「高麗川ふるさとの会」が実施しているビオトープでの野鳥定期調査に、メンバー3名が初参加しベテランの方々から指導いただきました。さらに10月21日(日)には、「日本野鳥の会 埼玉」が行った川越水上公園の入間川沿いでの野鳥観察に、庭野さんと利根川さん(薬学部)の2名が参加しました。

野鳥や自然環境の保護を目指して

「こまちょう」は長期的な活動目標として、野鳥を主体とした生態調査を高麗川流域全体で行い、その状況をマップにして地域や学生の方々に配布し、高麗川再生と自然保護活動への意識を高めていくことを掲げています。そのため、今後もベテランの方々の指導を受けながら野鳥観察を続け、調査や保護活動などの方法について学ぶ



セグロセキレイ (撮影:庭野渉さん)

とともにネットワークづくりも行っていくそうです。また野鳥の鳴き声を聞き分けたり姿から判別できるようになり、生態特性などを把握するための知識を習得すべく、図鑑や文献資料や鳥の声を収録したCDなども活用して勉強していくとのこと。庭野さんは、自分の大好きなカワセミが生き活きと翔け廻る環境を守り育てるために、卒業後もずっと活動を続けていきたいと、話してくれました。

「高麗川プロジェクト／学生説明会」 (2012年12月6・19日)

2012年12月6日(木)の第3回学友連絡会にて、「高麗川プロジェクト」の概要説明が行われました。城西大学学生会は、学生たちによる全学的な組織で、今回は代表学生18名が出席しました。2012年6月に発足した本プロジェクトについて、学生たちの認知・理解をより一層高めるため、プロジェクト統括責任者である副学長の白幡晶教授が、活動趣旨や参加条件などについて以下のように説明しました。

*プロジェクト参加対象は、大学の学生や大学院生が主体となる団体です。ゼミ・課外活動・ボランティア…どのような形式でも対象となります。

*高麗川に関わる環境調査・歴史研究・地域活性化その他、幅広い分野が対象です。高麗川に関する直接的な活動を応援する、間接的な活動もプロジェクト対象になります。

*学生の自主性を重んじたプロジェクトです

が、活動が円滑に進められるよう大学全体で支援します。特に、地域や行政などとの連携に関してサポートします。



12月6日の説明会

さらに12月19日(水)にも、説明会が開催されました。経営学部生など大勢の学生が集まり、白幡副学長と経営学部の柳下正和准教授から、プロジェクトの概要や活動メリットに関しての説明を行いました。

城西大学は本プロジェクトを通して、地域活性化・環境再生に対する意識啓発や、地域連携に基づく教育展開などを進め



12月19日の説明会

ていきます。今後、より多くの学生たちの参加により、プロジェクトが広がっていくことを目指します。

【高麗川プロジェクトWG】

「高麗川プロジェクト」提案募集に関するお知らせ
⇒城西大学ホームページ内
<http://www.josai.ac.jp/student/news/wg.html>

■ 本プロジェクトに関する問い合わせ先

城西大学「高麗川プロジェクト」事務局
Tel : 049-271-7712
Fax: 049-271-7947
e-mail:komagawa@josai.ac.jp

JOSAI・JINZAI

創立以来、城西大学は「学問による人間形成」を建学の理念として、多くの人財を社会に送り出してきました。城西大学で「学び」、「教え」、「育ち」、「社会貢献」への道を日々歩み続けている、在学生や留学生、卒業生、教職員たちをシリーズで紹介していきます。

師弟から同窓、そして 共に次世代育成の道へ ～理学部化学科/OB・先生～



若林英嗣 先生／主任・教授(写真右)

1978年 城西大学理学部化学科卒
1989年 理学博士(東北大学)
城西大学理学部化学科助手・講師・准教授を経て、2010年より現職
専門分野:有機化学

橋本雅司 先生／准教授(写真左)

1998年 城西大学理学部化学科卒
2003年 九州大学大学院総合理工学
府博士課程修了、博士(工学)
キヤノン株式会社先端技術研究本部研
究員を経て、2012年より現職
専門分野:有機合成化学、構造有機化学

卒業以来、研究者としての道程

本学の理学部化学科の卒業生である橋本雅司准教授は、2012年度からの化学科の新展開に伴い、新たに教員として着任しました。橋本先生の専門は有機合成化学で、「有機合成を基盤とした有機機能分子の研究」をしています。これは例えば液晶テレビに用いられる液晶分子や、太陽電池の材料になる有機色素などの開発に役立つ研究とのことです。学部生のころから取り組んでいた分野の研究を九州大学大学院でさらに深め、その成果が製品化に活かされるキヤノンに就職し研究・開発を続けました。そんな橋本先生に今回、

転機が訪れました。母校の教員にならないかと声が掛かったのです。

化学科主任の若林英嗣教授は、卒業後すぐに本学にて研究・教育者の道へ入りました。先生の専門は有機化学で、「非ベンゼン系芳香族化合物の合成と性状に関する研究」をしています。これは、最先端のテクノロジーや機能性先端材料などへ展開していく重要な基礎研究です。本学化学科には、社会から必要とされている研究テーマに自由にじっくり取り組める気風があり、若林先生も学生たちを指導しながら自らが選んだテーマの研究を継続し、様々な成果をあげてきました。また若林先生は主任の立場から、橋本先生を含め複数の新教員を迎える、今回の新展開の構成にも関わりました。

連綿と続き発展していく、 城西の化学研究と人材輩出

若林先生と橋本先生との交流は、指導教員と学生、本学卒業の同窓生、化学者同士の先輩後輩、と様々に形を変えながら続いてきました。今回、講義が上手く、かつ

卒業生ゆえに本学を良く理解している橋本先生を教員として迎えることができ、若林先生は喜んでます。一方、橋本先生は、城西の外に籍を置いて研究をしていた際に、城西の研究・教育クオリティの高さを改めて確信したとのこと。そして研究テーマをさらに広げ可能性を追求してみたいと考え、母校に教員として戻ったそうです。ちなみに、若林先生の橋本先生観は、「学生時代からリーダーシップを持ち合わせている優秀な人材。そしてチャレンジ精神が旺盛な研究者」。橋本先生の若林先生観は、「有機化学の魅力が、誰よりも分かりやすく教えてくれる先生。そして24時間、化学の事を考えている研究者」とのことです。

現在、両先生は、自分たちの後輩でもある学生たちの指導・教育に携わっています。真摯に研究に取り組む姿勢と、学生達を思いやる誠実な人柄とが相俟って、2人とも学生たちから信頼され親しまれています。「好きな研究に出会えて、それが仕事や社会に繋がっていく喜びを、彼らに持ってもらいたい」と、2人は共に語ってくれました。



研究室で学生と一緒に

初志を貫き困難のり越え、 教師の道へ

～経済学部／学生～

齋藤亮さん(経済学部4年)

学生時代に素晴らしい出会い

現役大学生の合格が非常に困難な、公立学校教員採用選考試験を見事に突破し、夢の実現へ踏み出した学生を紹介します。経済学部4年の齋藤亮さんは、中学時代に素晴らしい先生と巡り会ったことがきっかけで、将来の目標が教師となりました。以来、高校～大学でも尊敬できる先生との出会いが多くあって思いは一層強まり、出身地である静岡県で中学校の社会科の先生になるべく照準を定め、その願いを見事に叶えました。

公立学校の教員採用枠は昨今、倍率が高いことに加え、既に講師として働いている経験者が多く受験するため、現役大学生にとっては非常に狭き門となっています。特に文系教科においてその傾向が強く、齋藤さんが今回受けた中学校の社会科

は、倍率が約10倍だったそうです。しかし齋藤さんは諦めずに挑戦しました。2012年6月に母校で教育実習、7月に筆記試験、9月に面接、そして10月に合格通知を受け取ったのです。齋藤さんは中学時代から陸上競技を続けており、スポーツ活動が盛んな城西大学で1～3年は競歩の選手として活躍し、4年になってからはマネージャーとして選手たちを支えています。陸上の同好会活動で培った精神力も、初志を貫こうとする強い意志に繋がっているのでしょう。



齋藤亮さん(右)と安田学部長

心の交流を大切にしたい

齋藤さんは、経済学部長の安田信之助教授のゼミで学んでいます。この国際経済

学ゼミで学生たちは、自ら疑問や課題を見出し主体的に学ばねばなりません。それに対して先生が真摯に応え丁寧に導くことにより、学生たちは専門分野の知識を深めるとともに、広い視野を身に付けることができるのだそうです。このように学生の自主性を重んじる学び方などからも、齋藤さんは自らを成長させると共に、教師としての姿勢を学べました。

中学生は、子供から大人へと成長するデリケートな過渡期です。そんな彼らに日常的に接する教師として、齋藤さんは、人と人との触れ合いの大切さを伝えたいと考えています。そして丁寧なコミュニケーションで教え子の思いに応じていくことにより、彼らの自主性や生きる力を育める教師になりたいそうです。卒業まであと僅かですが、城西で得た恩師や友人たちとも今後ずっと交流を持ちながら、色々な人と出会い様々な経験を積み、自分を成長させながら次世代の育成に貢献したい——齋藤さんは夢と志に満ちた将来を語ってくれました。

浮世絵

～水田コレクションより～

水田美術館所蔵の浮世絵コレクションは、城西大学創立者・水田三喜男により収集されました。浮世絵からは美しさと共に、何ともいえぬ歴史の懐しさが感じ取れます。当時の人物や風俗などが、活き活き描かれている作品をシリーズで紹介していきます。

『源氏物語 女三の宮図』川又常正 紙本着色 一幅／寛保～寛延(1741～1751年)頃

桜が満開の縁側で、遊女が赤い紐に繋がれた猫と遊んでいる。本図は『源氏物語』の「若菜の巻」に取材し、女三宮を当世風の細身の立美人として描いた見立絵である。女三宮が蹴鞠を御簾越しに見ていると、逃げようとした唐猫の紐が御簾をめくり、外にいた柏木の衛門が、彼女の姿を見て一目惚れする場面。浮世絵ではしばしば描かれた人気の画題である。なで肩で華奢な人物表現や、見立の手法

を用いる点など、鈴木春信の美人へと続く様式を示している。

また、人の生活に最も馴染み深い動物の1つである猫は、浮世絵においても様々な場面や表現にて登場する。ここでは、女三宮の見立を表現する小道具として扱われている。若い娘とじゃれる猫というモチーフは、女三宮を当世風に見立てた風俗画において定型化され、多くの絵師に題材として取り上げられた。



川又常正／源氏物語 女三の宮図

ニュース

城西人の活躍現場から

各学部やクラブの活動、地域や社会と連携・貢献している活動などをご紹介します。

経営学部・駅伝部員 「小学校持久走大会」補助 2012.11.28

埼玉県小川町立八和田小学校が、「最後まで頑張りとおす態度を育むことと個に応じた速さで走りながら、体力の向上を図ること」を狙いとした教育活動の一環として毎年開催している持久走大会へ、経営学部の男子駅伝部員3名が、2012年11月28日(水)に3年連続で手伝いに行きました。

小学生たちを指導し伴走

当日、駅伝部員たちは現地到着後すぐに、今回コースの下見を実施しました。小学校は、紅葉真っ盛りの比企丘陵の小高い丘の上に位置しており、すぐ下の南側の田園地帯が持久走大会のコースとなっていました。コースの中に公民館があり、その駐車場がゴール地点とされました。持久走大会の開催時間短縮と2学年で児童数約50名という事情から、2012年度からスタート地点を学年ごとで変え、ゴール地点は同じで2学年同時スタートという方式に変更となりました。

9時40分より開会式が始まり、学校長あいさつの後、今回参加



小学生に伴走する部員

の本学駅伝部員——経営学部3年の三膳直弥さん(佐野日本大学高等学校出身)、同3年の櫻本健太郎さん(札幌山の手高等学校出身)、同1年の藤



大会を手伝った3名の部員

木政貴さん(拓殖大学第一高等学校出身)——の3名が紹介されました。準備運動が駅伝部員により実施され、小学校教員からの諸注意後、大会が始まりました。

駅伝部員3名は、各学年の先頭と最後尾を伴走する形で大会を補助しました。9時55分に3年生(1200m)と4年生(1500m)が出走。号砲の合図でレースが始まり、走路脇で保護者や地域の方々に応援する中、小学生たちは元気いっぱい走り出しました。10時15分に1年生(800m)と2年生(900m)が出走。1年生たちからは、伴走の駅伝部員を置き去りにする程のスタートダッシュ集団も現れました。10時35分に5年生(1700m)と6年生(1900m)が出走。6年生には、最後の大会で良い成績を狙う児童や6年連続1位を目標にした児童もいました。

10時55分から閉会式となり、駅伝部員の指導のもとで整理運動、校長先生による表彰、表彰者の感想、駅伝部員からの話、代表の6年生児童からお礼の言葉、小学校教員の講評、で大会は終了しました。閉会式後、児童たちからは自然と駅伝部員たちに握手を求める列ができ、お礼の言葉を伝えていました。

子どもたちと心のやりとり

駅伝部員の走る姿を通して正しいフォームや走る楽しさを児童に体験させてほしいと、部員派遣依頼を小学校より頂き、駅伝部員たちは今年も参加となりましたが、彼らは素直な児童たちから「初心を忘れず一生懸命走る、最後まで諦めない気持ち」を受け取りました。今回参加した部員の中より、箱根駅伝の走者として小学生と再会する者が現れば、それは次の物語の始まりになりましょう。

この企画についてご協力頂いた男子駅伝部監督櫛部先生を始め、男子駅伝部、経営学部教職員、事務局関係部署の多くの皆様に御礼申し上げます。

理学部化学科 「理学部化学科講演会」 2012.9.28、10.26

研究の集大成を発表

化学科学生および教員を対象に、定期的に開催している理学部化学科講演会より、本学で教育・研究に携わっていた2講師の、自らの研究の集大成に基づく講演を二つ紹介します。

第275回講演会 / 2012年9月28日(金)

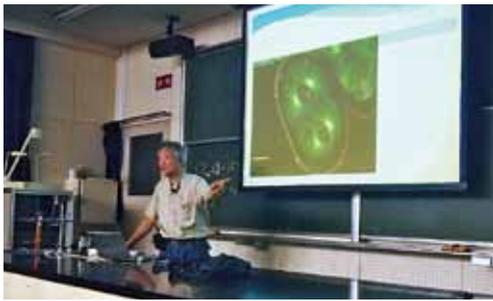
演題:「電気泳動と生体成分」<Electrophoresis and Biological components>

講師:前 城西大学理学部化学科講師 小林英三郎氏

要旨:「電気泳動による生体成分分離」を中心に「生命科学」の「化学的側面」について～

化学の成果は人間生活を大きく変える力を発揮してきた。特にこの3世紀間における業績は莫大で、その成果が近代工業化学の基礎を築き上げてきた。そして21世紀、微量化学物質の研究の進歩により、生命現象の「時間軸を持つ化学分析」という新しい分野が展開され、「生命」という複雑系を系統的に説明することができるようになる」と期待されている。

講師の小林先生は、2011年度まで本学理学部に在籍しており、40年以上にわたる先生の研究の集大成に基づく講演は、科学の進歩について認識する良い機会となりました。先生が現在所属



275回講演の小林先生

している、特定非営利活動法人バイオテクノロジー標準化支援協会での活動についても話され、学生たちにエールを送ってくれました。

第279回講演会／2012年10月26日(金)

演題:「チオカルボニル基を有する安定な化合物類の合成と反応」

講師:前 城西大学理学部化学科教授 村岡巨氏

要旨:チオカルボニル基を有する複素環式化合物群の内あるものは、多岐に渡る反応でヘテロ環式化合物等を生成する。またアルデヒドのチオアナログのチオアルデヒドは、1世紀余に渡り合成が試みられたがことごとく失敗し、1950年代以降は研究が行われなくなった。

しかし、ヘテロ芳香族チオアルデヒドは、そのタングステン錯体が非常に安定であることが分かり合成法が開発された。さらに芳香族チオアルデヒドをタングステンペンタカルボニルとの錯体として単離することに成功した。

講師の村岡先生は、2012年3月に本学を退職し、本講演は退職記念講演に当たります。専門は硫黄有機化学であり、研究の発端となった初期のテーマと本学在職45年間の有機化学第二研究室(在職研究室)の研究の歴史について話されました。皆興味深く聞き入り、講演終了後は活発な質疑応答が行われました。



279回講演の村岡先生

経済学部 「就職活動体験発表会」 2012.11.9

不安を行動力に変える!

経済学部では、学部就職支援委員会の主催で2012年11月9日(金)に「就職活動体験発表会」を開催しました。全学年の学生の参加を得て、就職内定学生8名が発表を行い、各自の活動方針、活動中の不安や課題とその解決方法などを披露しました。

発表会には、安田学部長と浦上学科主任を加えた教員5名と就職課の駒場さんが参加しました。発表学生に対して、教員から質問とコメント、学生から質問が多く出され、充実した討論が行われました。

2012年の就職活動も、昨年に続き12月1日からのスタートです。単位修得を目指し授業に忙しい3年生が、12月から就職活動を開始することは重い負担であるため、活動を先送りする学生も見受けられる中、4年生が3年生に対して、現在の厳しい就職状況への不安を少しでも取り除き、内定取得に向かって積極的に活動するにはどうしたら良いかノウハウを伝授するのが、本発表会の目的です。

内定者の体験談は、各自の活動での工夫や失敗を交えた迫力に満ちた内容であり、各発表者が業界や職種を絞り込むプロセスで



発表会場の様子

自分に合った方向を探し当てることを通じて、人間的にも成長できることを実感した内容が多く、就職活動そのものが、社会人になるための避けられない関門であることを示すものでした。

参加者の感想には、以下の事項などがありました(アンケート結果より抜粋)。

- 就職攻略本などに書かれていることは異なり、リアルな現状や就活の流れを把握できた。
 - 全員が同じ就活方法ということではなく、自分に合った方法を見つけることが大切であると感じた。
 - 体験談を聞いて、何よりもやる気が出た。先生の話よりも参考になった。
 - 自分の行きたい職場を確定しておくことの重要性が分かった。
 - 面接の際に気をつけるポイントを知ることができた。
- 今後もこのような機会を設けてほしいとの意見も、多数ありました。



報告する内定者たち

ニュース

社会に生きる城西

社会に生きる各学部の活動や、国際交流・社会貢献・文化活動などをご紹介します。

薬学部 「オリジナルハーブティー」をプロデュース 2012

薬学部では、中央ヨーロッパのヴィシエグラード4カ国(チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア)に縁のあるハーブを用いた、ヘルシーな紅茶(ハーブティー)を開発しました。紅茶の原料となる「茶の木(ツバキ科ツバキ属)」の学名“*Camellia sinensis*”は、これをヨーロッパに持ち帰ったチェコの宣教師 G.J.Kamel氏に由来しており、この事より今回の紅茶は“Camellia JU Tea”と名付けました。また開発には、本学の「国際交流活動」「薬学部の学科構成」における長が活かされており、薬剤師の資格を持つ薬学部長の杉林堅次教授と、管理栄養士の資格を持つ堀由美子准教授のプロデュースにより、オリジナルハーブティーは完成しました。

国際交流活動の一環として取り組み

本学ではハンガリーなどヴィシエグラード諸国と、留学その他の学的・学術交流を活発に行っており、薬学部では研究成果を活かし、美容や健康に良いハーブを含むハンガリアンウォーターを配合したせっけん「JU50ハンガリアンコスメケーキ」などを開発してきました。



JU50ハンガリアンコスメケーキ

そして今回は、ヴィシエグラード諸国を含むヨーロッパで定着している紅茶とハーブに着目。薬学部在籍するポーランド人教員のアドバイスも受け、お茶の開発に取り組みました。

薬学部ならではの発想で2種類開発

本学の薬学部医療栄養学科は、学部内の他の2学科(薬学科・薬科学科)とも連携し、栄養学に薬学的な視点を取り込み、健康に良いバランスのとれた「食事設計」という考え方を提唱しています。今回の開発においても同様の考え方から、通常のハーブティーによく用いられる「西洋オトギリ草」など、一部の薬の効能を顕著に変動させるハーブは除きました。さらに、紅茶をベースにリラックス効果があるアロマなども取り入れたため、誰もが安心して美味しく飲める、香り豊かなお茶に仕上がりました。そして、薬が効能により飲む時間帯を変えるのと同様に、時間帯や生活シーンごとにそれぞれふさわしい飲み物を提供すべく、午後のリフレッシュ時に合う

“Camellia JU afternoon Tea”と、就寝前に合う“Camellia JU bedtime Tea”の2種類を開発しました。

Camellia JU afternoon tea

ダーズリン紅茶をベースに、サンザシ、ペパーミント、エルダーフラワーがブレンドされています。サンザシは、漢方でも消化を促す目的で用いられます。爽やかなミントの香りと、エルダーフラワーの花が開く様子が楽しめます。

Camellia JU bedtime tea

ニルギリ紅茶をベースに、エルダーフラワーとオレンジフラワーがブレンドされています。エルダーフラワーとオレンジフラワーの二つから漂う、上品な甘い香りが心を癒やしてくれます。寝る前やリラックスしたいときに飲むと、緊張がほぐれます。



開発成果を、教育現場へ

今回の開発は、学生に様々な視点から研究成果を社会に活かす方法などを学んでもらう事が、大きな目的の一つになっています。学び成果をどのようにして対外的に役立つことに繋げていけるか——今回の成果は、学びの現場に取り入れられ、学生のために役立てられていきます。

*紅茶の内容や入手方法などに関しては、広報センターまでお問い合わせください。
☎03-6238-1240
(月~金/10~17時)

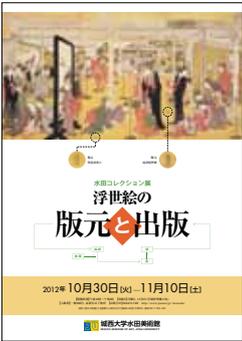


薬学部の薬用植物園

“版元印”から歴史を見る

城西大学水田美術館で2012年10月30日(火)～11月10日(土)に、『水田コレクション展 浮世絵の版元と出版』が開催されました。この展示会は浮世絵版画について、初期から寛政期さらに明治期までの作品を通し、出版をとりまく社会状況を読み取りながら“版元印”や“改印”に見られる情報に注目し、出版の歴史から捉えたものです。

浮世絵版画の最大の特徴は、大衆が気軽に購入できる量産された出版物である点です。それを企画から宣伝・販売まで一手に引き受けるのが版元です。一枚の浮世絵は、版元が企画を立て絵師に注文するところから始まり、その売れ行きは、大衆の好みや流行を先取りし人気絵師を起用する、版元の手腕にかかっています。喜多川歌麿や山東京伝、東洲斎写楽を売り出した版元の葛屋重三郎は、その卓越した例といえましょう。



展示会チラシ



展示会場の様子

一方、出版活動の活発化とともに幕府の取り締まりも強化され、寛政期(1789～1801)には検閲制度が始まります。度重なる禁令や取り締まりの中、版元は様々な工夫で大衆の興味を喚起し、出版は発展を続けました。浮世絵版画には、絵師の落款だけでなく屋号などを意匠化した“版元印”があり、版元の役割の重要性を物語ります。また検閲の“改印”は、作品の刊行時期を知る情報源となります。

高麗祭の開催期間中にあたる11月3日(土・祝)には、学芸員によるギャラリートーク(展示解説)を実施。本学学生や地域の方々にも一味違った視点から、喜多川歌麿「大名屋敷の山東京伝」や東洲斎写楽「八代目森田勘弥の由良兵庫之助信忠」などの浮世絵を楽しんでもらいました。

ツリー点灯 響く歌声

2012年12月14日(金)、城西大学坂戸キャンパスで『ライトフェスティバル2012』が開催されました。キャンパス内のけやき並木や建物などがイルミネーションで彩られ、水田記念図書館前には大きなクリスマスツリーが設置されました。

薄暮の中、学生や教職員そして近隣の方々などが集まり始めたところ、クリスマスツリー前に設営された野外ステージでイベントが始まりました。ダンスサークル・シューレースのパフォーマンス後、草野素雄副学長が開会あいさつを述べ、水田宗子理事長と森本雍憲学長や学生たちなどによるツリー点灯が行われました。その後は、学生たちによる数々の余興が披露されました。最初にグリークラブ



メインストリート夜景

のクリスマスソングに、吹奏楽部の演奏が続きました。次に坂上順子先生(経営学部)の伴奏で、ハンガリーからの留学生ヴィックイ・ドミカさん(経営学部)が澄んだ歌声を夜空に響き渡らせました。そして現在、学業と並行して俳優・歌手活動もしてい

グリークラブ歌唱



る下松翔さん(現代政策学部3年)が登場。自らのCDに収録されている曲などをプロならではの歌唱力とスタイリッシュな出で立ちで熱唱しました。最後は、松島憂弥さん(経営学部1年)によるファイアードダンスです。明々と燃える松明をアクロバティックに回転させてステージ一杯に繰り広げられる圧巻のパフォーマンスに、舞台も観客席も熱気に包まれました。そして松明の炎が余韻を残す中、白幡晶副学長から閉会あいさつが述べられ、2012年度のライトフェスティバルは終了しました。

ライトアップされたメインストリートに並んだ模擬店では、留学生を含む大勢の学生たちがたこ焼きや豚汁など体が温まる食べ物を用意しており、近隣から来たの方々にも喜んでいただきました。本学は今後も、このように地域の方々にも参加いただけるイベントを企画・実施していきます。

ニュース

社会に活きる城西

社会に繋がる大学の活動などをご紹介します。

「子ども大学にしているま」開校

2012.10~12

「子ども大学」事業の概要

「子ども大学」は、色々な学校・学年の子供たちが大学で、一味違ったテーマを教授などから教えてもらい、子供たちの知的好奇心を刺激し学ぶ機会を提供する事業です。ドイツが発祥ですが、日本では埼玉県で2009年に「子ども大学かわごえ」開校以来、県内各地域にて大学・企業・NPOと市町村・県が連携して展開し、2011年からは「元気な地域を創造する子ども大学推進事業」として実施されています。

「子ども大学」では、以下の三つの分野の講義を基本に行います。

- 1.ものごとの原理やしぐみ追求する「はてな学」
- 2.地域を知り郷土を愛する心を育てる「ふるさと学」
- 3.自分を見つめ人生や将来について考える「生き方学」

「子ども大学にしているま」開校!

／2012年10月6日(土)～11月24日(土)

「子ども大学にしているま」が、2012年に初めて開校。明海大学と城西大学で各2日ずつ、計4日の日程で実施されました。参加者は、坂戸市・毛呂山町・越生町の小学校5～6年生からの応募者40名です。本学キャンパスでは、身近な科学を楽しく学べるプログラムをラインナップ。子供たちは最初に教員から話を聞いた後、学生たちのサポートのもとで色々な実験・実習にチャレンジ。プレゼントされた白衣を着て実験に臨み、驚きの声をあげたり笑顔を見せたりしていました。



—196℃の世界を体験

○11月3日(土)【はてな学】

講義「冷たすぎるとどうなるの? -196℃の世界」～何でも凍る-196℃の世界での、物の変化を調べる～

「見えない電気とじしゃくのはたらき:きょういとふしぎ」～磁石の実験で、電気の力を調べる～

講師:城西大学理学部化学科/石川満教授、他

○11月24日(土)

【はてな学・生き方学】
講義「薬剤師の仕事体験—ぬり薬をつくってみよう—」～薬の調合を体験～

「管理栄養士の仕事体験—今日の朝ご飯は明日、君の体になる!?!—」～食品模型を使い栄養価調査～

講師:城西大学薬学部/坂本武史教授、杉田義昭教授、真野博教授、金賢珠講師、他



管理栄養士体験。食品の栄養を調べる

また11月24日(土)は、講義終了後に引き続き本学で、「子ども大学にしているま」修了式を明海大学と合同で実施。子供たちに修了証を授与するとともに、本学から薬学部オリジナルの「お薬かると」と「ジャム」を贈呈しました。その後、「子ども大学」全体での発表・交流会に向けた準備作業が行われ、子供たちは実験結果や自分たちの感動や感想を模造紙にまとめました。全体発表・交流会は12月22日(土)に大宮ソニックシティで実施され、「子ども大学にしているま」の子供たちも成果を発表するとともに、他エリアの子供たちと交流を深めました。

地域に根差す総合大学として、 子供の育成に貢献

本学では以前より独自に、地域の子供たちに対して学びの機会を提供していましたが、今回は埼玉県からの依頼を受け、自治体や他大学などと連携して当該事業に参画しました。初開催となる今回は、理科系に焦点を絞った体験型の講義を構成しました。今後は、文系・理系双方の学部を有する総合大学として、多彩なプログラム構築を検討していきます。また、市町を超えて子供たちが集まる交流機会として発展させていくことも、今後の課題です。本学は「子ども大学にしているま」事業を通して、地域の子供教育にさらに貢献することを目指します。



修了式。全員集合

学生瓦版

城西大学広報委員会の学生たちが、自分たちの五感を駆使して学内の情報を発掘し、学生の目線で捉えて取材した記事をシリーズで紹介します。

貴雲塾

歴史ある城西大学の文化部

「貴雲塾は主に陶芸をしており、学友館1階の作業場で土の成型から素焼き、本焼き、色付けから完成まで陶芸の全てをできるようになっています」そう語るのは吉川真維樹さん。貴雲塾の部長だ。学友館というのは大学の西、裏門の近くにある建物で様々な団体の部室が集まっている建物だ。他にも貴雲塾ではシルバーアクセサリーや七宝焼きの製作も行っている。

貴雲塾は2012年で創設40年目を迎える。これは城西大学に数ある団体の中でも特に古い部類に入る。メンバーは2年生14人、1年生4人の計18人。創設当初は植物の研究を行っている団体だったが、20数年前から陶芸を始め現在に至っている。

今年の高麗祭で貴雲塾は焼きものとシルバーアクセサリー合わせて約70点を展示し最優秀賞に輝いた。数多くの団体が参加する高麗祭でたった1つの団体にしか贈られない名誉ある賞だ。

「高麗祭に向けての作品製作は春から始まり、活動が活発になるのは後期が始まる9月以降で、10月からは展示で使用する布や飾り付け用の買い出しを行います。作品も後期になると完成してきます」

取材の最後に吉川さんから、学生に向けたメッセージを伺った。

「日常生活で陶芸をする機会はなかなか無いので、ぜひとも貴雲塾に入って陶芸を楽しんでほしいです。少しでも興味があったら覗いてみてください」



賞状を手にする、貴雲塾部長の吉川さん

(取材:広報委員会3年・加園優人、広報委員会1年・松本拓郎)

変化する大学図書館

大学に求められる多様な学習・教育・研究活動への支援や、新しい動向に対応するために、水田記念図書館では様々な取り組みをしています。さらなる利用者サービスの向上を目指した新しい活動も交え、その一端をシリーズで紹介します。

地域と共にある大学図書館を目指して

～図書館総合展ポスターセッションへの参加～

水田記念図書館では地域相互協力館(坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、飯能市、毛呂山町、越生町)との連携により大学図書館の特性を活かした地域貢献活動を続けています。この活動内容を2012年11月20日(火)～22日(木)にパシフィコ横浜で開催された『第14回図書館総合展』ポスターセッションにおいて発表しました。図書館総合展は、図書館の最新の動向や取り組みを学べるフォーラムや、図書館関連の企業による最新技術のプレゼンテーションなどがあり、「これからの図書館」を考えるヒントが得られる場とあって日本中の図書館関係者が参加します。今回のポスターでは大学図書館を大きな木にたとえ、以下の10の活動を果実として表現しました。

- ① 地域相互協力館の図書館長と主務者つどいを開催、協力事業を協議・実行
- ② 地域相互協力館への無料貸出
- ③ 地域相互協力館主催の公開講座開催
- ④ 地域相互協力館合同の実務研修会開催

- ⑤ 坂戸市、鶴ヶ島市の図書館まつり、図書館と県民のつどい埼玉に参加
- ⑥ 鶴ヶ島市立図書館との連携による図書館活用講座を開催
- ⑦ 大学で実施した教員免許更新講習の一部を担当
- ⑧ 「書評合戦ビブリオバトル」に地域の方も応援参加
- ⑨ 「城西大学機関リポジトリJURA」で大学の研究成果を発信
- ⑩ 一般の方向け貸出サービス、ライブラリーカード会員制度を設立

本学図書館は、今後も地域協力館と連携しさらなる成果を得られるよう、活動を広げていきます。



セッションに参加したポスター

お知らせ

水田清子 名誉理事長 大学葬



故・水田清子先生

2013年1月4日、学校法人城西大学名誉理事長の水田清子先生が逝去され、1月17日(木)護国寺にて大学葬を執り行いました。葬儀には、福田康夫 元内閣総理大臣や鳩山邦夫 元総務大臣をはじめ、佐藤禎一 元文部事務次官、清成忠男 元大学基準協会会長、北山禎介 三井住友銀行取締役会長、朝比奈豊 毎日新聞社代表取締役社長、ハンガリー・チェコ・

ポーランドの各国大使や海外姉妹校の総長・学長など、政界・官界・財界から、そして学内関係者など約2,000人が参列し故人を偲ぶとともに最後のお別れをしました。

葬儀委員長は本学理事の長岡實先生が務めました。葬儀では、森英介 元法務大臣(衆議院議員)、上原明 理事(大正製薬ホールディングス株式会社 代表取締役会長兼社長)、森本雍憲 城西大学学長から弔辞が奉呈されました。また、安倍晋三 自民党総裁、下村博文 文部科学大臣、米倉弘昌 住友化学株式会社代表取締役会長をはじめ、多くの方々からの弔電等が霊前に捧げられました。

遺族代表として水田宗子理事長は「母である水田清子は、政治家の妻として、夫の水田三喜男が亡くなった後は城西大学の理事長として、精一杯の人生を歩んできました。そして数々のご縁に恵まれ皆様方のご支援のおかげで、理事長職を全うすることができました。母が皆様から頂いた多くのご厚情に心より御礼を申し上げますとともに、これからも励ましとお力添えを頂きますよう、よろしくお願い申し上げます。」と挨拶しました。



僧侶による読経



森英介 元法務大臣(衆議院議員)の弔辞	上原明理事の弔辞	長岡實葬儀委員長の挨拶
水田宗子理事長の遺族代表挨拶	森本雍憲城西大学学長の弔辞	



■水田清子 名誉理事長の足跡

水田清子先生は、学校法人城西大学創立者で初代理事長・学長の水田三喜男先生が逝去された1976年に後を継ぎ理事長となり、2004年に退任後は名誉理事長として相談役を務めました。戦後の第一回総選挙で衆議院議員となられた三喜男先生を、1976年までは妻として要職を務める大臣を支え続け、その後27年にわたる理事長職にあつては、創立者の遺志を継ぎ大学を発展させてきました。

名誉理事長の第一の大きな事業は、1983年の城西大学女子短期大学部(現・城西短期大学)の開学です。これは、女性が社会と経済を支える重要な人材であることが期待される現代への先駆けでもありました。第二の大事業は、1992年の城西国際大学の開学です。グローバル基準による競争社会の到来を見越し、国際的な人材の育成や地域に貢献できる人材の育成を目指してのことです。どちらも先進的で社会の要請に応えた仕事でありました。

また学部学科の増設や大学院の設置、2002年に創立者生家の修復・保存、2005年に東京紀尾井町キャンパス、2006年に創立者出生地である鴨川に安房キャンパスを開設。文武両道を掲げ、クラブ活動の強化とともに大学施設を整備、各センターの設置など教育・研究面の充実を図り、海外姉妹校との提携推進による国際的なキャンパス作りやスポーツ分野での活躍ができる環境を整えました。さらに大学経営と財政の健全性と安全性を実現し、現在の城西大学・城西国際大学の発展基盤を作り上げました。

名誉理事長は俳人としても高名で、俳人協会名誉会員でもありました。若き頃より富安風生先生に指導を受け、その後、勝又一透先生、岡本眸先生に師事。城西国際大学では、東金俳句会において講師を長く務められました。句集『白鳥』『高麗堤』『石落の花』『安房山』『九十九里』と全



城西短期大学棟の句碑

5冊の句集があり、1994年に建てられた城西短期大学棟の前の句碑には、「石落の花遺業をまもり余生守り」と詠みこまれています。

【水田清子先生句碑】

日枝神社(埼玉県本庄市)
「ひもろぎのあたり霞を濃くしたり」 清子
1984年4月
城西短期大学棟の前に
「石落の花遺業をまもり余生守り」 清子
1994年5月26日
城西国際大学ピアノ池のほとりに
「夢あまた飛び翔つさまに花辛夷」 清子
1999年3月23日

エリア紹介

越生町

春のおごせ散策「梅林」

越生町には、関東三大梅林のひとつに数えられる「越生梅林」があります。園内には1,000本以上の梅の木が植えられ、樹齢600年の古木「魁雪」もあります。見ごろは2月下旬～3月上旬で、「梅まつり」開催中は園内をミニSLが走り(2月は土日のみ)、お囃子や獅子舞などの催しで多くの人が賑わい、ひと足早い春を楽しめます。今年の梅まつりの開催期間は、2月16日(土)～3月20日(水・祝)の予定です。花の開花状況や梅まつりなどの情報は、越生町ホームページや越生町観光案内所

「OTIC」(☎049-292-6783/テレホンサービス:049-292-5315)などで得られます。

越生町にはその他、日本観光百選の黒山三滝、関東一の五大尊つつじ公園、太田道灌ゆかりの山吹の里歴史公園などがあります。里山や森林ハイキングのまちとして有名で、ふれあい健康センター「ゆうパークおごせ」(12種類のお風呂・ログハウス・バーベキュー場)もあります。また、梅と柚子の収穫量と出荷量は県内第一位。早春の梅から始まり、桜、山吹、つつじ、秋の紅葉、そして柚子の香りなど、一年を通じて四季の花と香りを楽しめる自然豊かなまち、越生町にぜひ来てみてください。



東武線沿線情報

東武東上線がさらに便利になります!

2013年3月16日(土)。一体何の日かわかりますか?



東武東上線
西武池袋線
東京メトロ副都心線
東急東横線
みなとみらい線

2013.3.16 渋谷、つながる。

東武鉄道では2013年3月16日(土)から東武東上線と東急東横線、横浜高速みなとみらい線との相互直通運転を開始します。すでに、東京メトロ有楽町線、副都心線との相互直通運転で、銀座・有楽町、新宿・渋谷方面まで行けますが…さらに!東武東上線から自由が丘、横浜、元町・中華街等へ乗り換えなしで行けるようになります。

乗り換えなしで東武東上線から横浜方面まで1本で行けるようになることで、大変便利になり行動範囲が広がります。ぜひ東武東上線でお出かけください。



乗り入れる
50070型車両

坂戸市

春を彩る坂戸の桜

桜で薄紅色に染まる季節がまもなく訪れます。そこで、坂戸の桜のおすすめスポットをご紹介します。

慈眼寺のシダレザクラ(見頃:3月下旬～4月上旬)

慈眼寺(坂戸市中小坂285)のシダレザクラは、樹齢250年以上といわれ坂戸市の天然記念物に指定されています。有名なシダレザクラは、山間部の寺院の境内にあることが多いのですが、この桜は平地の市街地郊外にあり地理的にも珍しいものです。

東坂戸団地の桜並木(見頃:3月下旬～4月上旬)

東坂戸団地を縫うように流れる大谷川沿いの桜並木は、川を覆いかぶすように見事に咲き誇り、水面に映える様子のおもしろさを楽しめます。毎年春に開催される桜まつりは、花見の人たちで大いににぎわっています。

その他にも、泉町の高麗川右岸の環境側帯にある「高麗川の桜堤(見頃:3月下旬～4月上旬)」や塚越の谷治川と飯盛川の合流する辺りにある「すみよしの河津桜(2月下旬～3月中旬)」、北浅羽の越辺川堤防沿いにある「北浅羽の桜堤(見頃:3月中旬～3月下旬)」などの桜の見どころがあります。

春の穏やかな季節に、坂戸の桜巡りをしてみませんか。

場所・開花等に関するお問合せ先:
坂戸市観光協会 ☎049-283-1331



慈眼寺のシダレザクラ



東坂戸団地の桜並木

■城西歳時記 2013年2月～4月の、城西大学の主な行事(予定)を紹介します

2013.2.12(火)～14(木)	2.20(水)～21(木)	成績発表・卒業発表
卒業研究発表(理学部化学科)	3. 6(水)	卒業発表(薬学部)
2.12(火)～19(火)	3.19(火)	学位記授与式
インターンシップ(短期大学)	4. 4(木)	入学式

編集/学校法人城西大学 広報センター
発行/城西大学 総務部総務課
〒350-0295
埼玉県坂戸市けやき台1-1
TEL049-271-7712
<http://www.josai.ac.jp>

2013年2月発行

